



2026年03月11日  
第178号

# JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一  
編集 情宣 担当  
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

## 東日本大震災を检修職場目線で振り返る

2011年3月の東日本大震災では、津波により1万5千名以上の方が亡くなり、福島第一原発事故も発生しました。JR東日本の東北を中心とした路線も多くの被害を受けました。当時の全国の检修職場の情報をもとに、職場の問題点、そして身を守る対応策について振り返ります。

### 新幹線総合車両センター

- 地震発生後、作業を中断し広場に避難した。直後から雪が降る天候だった。場内のライフラインは全滅で、テレビ等の情報も取れなかった。
- 修繕中の台車枠や天井ダクト、エレベータの壁が落下した。

### 小牛田運輸区 (現・仙台車両センター小牛田派出)

- 地震発生時、交検で床下作業を行っていた。主任の大声でピットから飛び出した。
- 交検ピットの水平狂いが発生。現在も狂いがあるまま検査を実施。
- 震災後通勤に車を使った際の燃料代精算が、市価より低い単価だった。

### 仙台車両センター

旅行中で地震となり、交通手段がないため自宅に帰れず、職場にも出勤できなかった。これを会社は年休または欠勤にしようとした。最終的に支社と交渉し、「罹災」扱いにさせた。

### 新潟車両センター

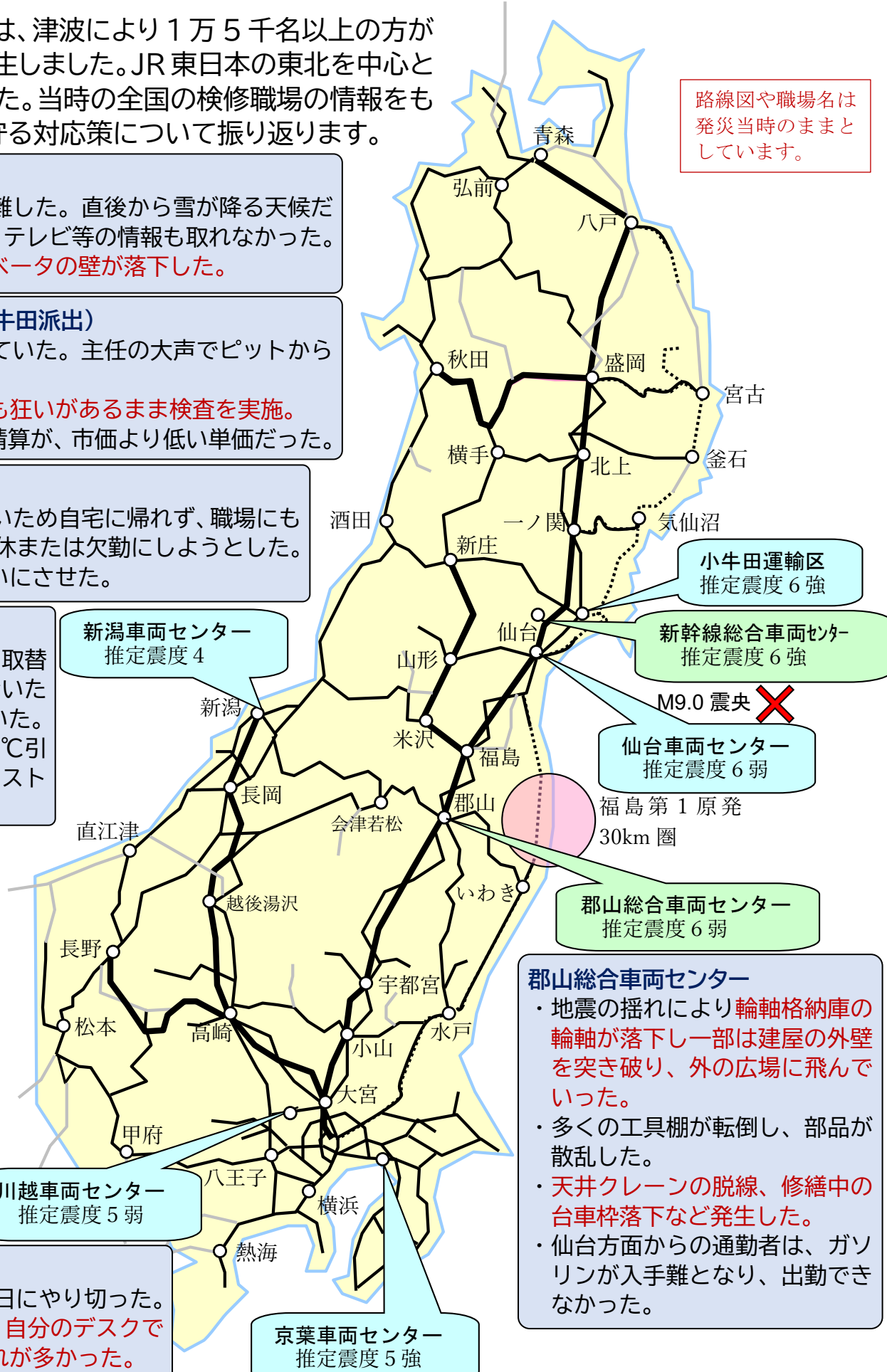
- 主電動機サッシの製造工場が被災し、取替基準の変更案が出た。供給が安定しないため、他の車両センターと融通をしていた。
- 蛍光灯の間引きや冷房設定温度の2℃引き上げが行われていた。「節電」がコスト問題にすり替えられていた。

### 京葉車両センター

- 液状化による被害がひどい。地震直後、水が湧き出るような音と共に線路や庁舎が陥没した。
- 一部で車両の脱線があった。構内の線路は早期に復旧したが、通路の復旧は遅かった。
- 台検庫のリフティングジャッキを見たら、「耐震性はありません」と説明書きがあった。対策として「管理者が立ち会い、緊急地震速報の受信時には笛で退避合図をする」となった。

### 国府津車両センター

- 一旦広場に避難したが、残作業はその日にやり切った。
- 終業後も全線が運転見合わせとなり、自分のデスクで仮眠した。コンビニの食料も売り切れが多かった。



路線図や職場名は発災当時のままとしています。

**郡山総合車両センター**

- 地震の揺れにより輪軸格納庫の輪軸が落下し一部は建屋の外壁を突き破り、外の広場に飛んでいった。
- 多くの工具棚が転倒し、部品が散乱した。
- 天井クレーンの脱線、修繕中の台車枠落下など発生した。
- 仙台方面からの通勤者は、ガソリンが入手難となり、出勤できなかった。

**想定外は起こりうる！実際に起きたことから学び、職場内を点検し、みんなで安全議論をしていこう！**